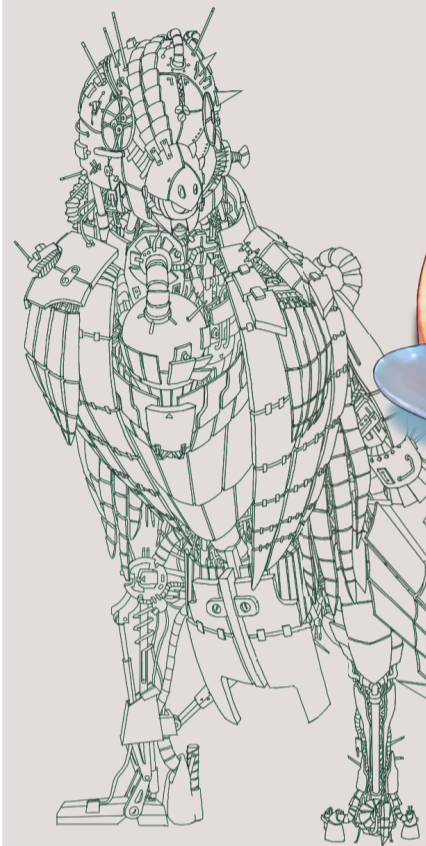


SENJU KOBO GALLERY

『あおぞらのフルーツ・パフェ』 絵 藤野健
今回は足立区六町のくちま(こ)にあるアイスcreamのお店
『あおぞら』のフルーツ・パフェを描く依頼を出しました。
右下にある広告のお店です。(編集部)



『鳥』今回はデジタルで描いてみました。描いている時に手がプルプルしてしまってCtrl+Zにお世話になりました。(汗) 絵 杉本 明聡

東京足立 千住工房通信

株式会社千住工房
東京都足立区南花畑3-35-1
グリーンパーク花畑 VI-507
電話 (03) 3859-2720

お問い合わせは
info@senjukobo.co.jp
www.senjukobo.co.jp

身だしなみはビジネスマナーの第二步

きつちりした身だしなみで仕事への誠実さを表現しよう。

先日、社内でのマナー講座を行いました。講師はマナー講師の斎藤さん。彼女はいつもオシャレでありながらきちんとした印象を人に与える女性で、我が社の中で最も一般常識を知っている人だと思われ、講師役をお願いしました。当日は名刺の渡し方や受け取り方、応接ではどの席に座るのかなどを教えてもらい、実践もしてみました。名目は新人の2人に社会人の基本マナーを教える、という体で行われましたが、すでに四捨五入すると500になる私、杉本もよく分かっていない部分があり、また、ベテラン社員の中にも質問する者もいるなど、新人にだけではない、ベテランにも



有意義な講座になったと思えます。この業界で働くクリエイターたちは、特にスーツなどの決まった服装はないので気楽と言えはいますが、こと「美しいものを創り出す仕事をしている我々は、見た目や仕草も美しいものを目指した方がよい」と思っています。それに加えて会う人達が不快にならないように、その場のTPOに応じたマナーを身につけたいと思います。新人達は「服装の事まで細々と行われたくない」と思うでしょう。でも、一歩外に出れば千住工房の一員なので、それを忘れずに取り組んでもらいたいと願っています。



パンキン味のお菓子がたくさん目につきますね。まあ結局砂糖の味はしないんですけど。ハロウィンというのは日本ではあまり馴染みのない祝日かと思えますが、なんか仮装してお菓子がたくさん食べられる日という認識です。一応キリスト教のお盆的な祝日とかケルトの収穫祭が発祥だとか言われてますが、バカ騒ぎする口実の一つとしか思われてないという印象。自分も子供の頃は変な仮装着てトリックオアトリートでお菓子を求めて回ったものです。10月も深まり、町はハロウィン色に染まっています。主にお店とか。スーパの前にカボチャが積み上げられたり、某なにバックスカフェにはパンクキンスパイラテがメニューに加わったり



あまり食べなくなりました。後はホラー映画の季節ですね。映画館でもテレビでもホラー祭り。子供の頃うっかりテレビで見ると途中で怖くなって消したりしましたが、結末を見ないと却って想像力が働いて夜眠れなくなりました。今では特に関心は参加はしてませんが、これも祭りの空気感でハロウィンの季節は楽しくなります。そんな中コストコは9月からすでにクリスマス商品を積み込んで、その溢れる商売に気が若干引きました。

どうもTaroです。実在する人物です。10月も深まり、町はハロウィン色に染まっています。主にお店とか。スーパの前にカボチャが積み上げられたり、某なにバックスカフェにはパンクキンスパイラテがメニューに加わったり

Liquor and Snack

すっかり秋も深まってまいりましたね。秋の味覚はいろいろあるけど、やっぱりスーパーではさつまいもが目につきます。あと最近では、ハロウィンの流れで10月はお菓子やスイーツのかぼちゃ押しがすごいですね。

Recipe for Yogurt Sauce: ヨーグルトソース ※下記のもの混ぜるだけです。プレーンヨーグルト(無糖)とマヨネーズ...約3:1 クレイジーソルト...適量 ブラックペッパー...適量

文と絵・小林 雅代

鳥居清長 一のびやかな美人画を描く

第三回目となる三人目は、前回の春信と同じく主に美人画を描く鳥居清長です。今回は、浮世絵師を熱く語る阿部通です。今回も写楽、晴信に続く魅力的な浮世絵師を紹介したいと思います。

鳥居清長について 鳥居清長は宝暦二年(一七五二)役者絵の名門鳥居家に生まれます。師は鳥居清満で鈴木春信(前回紹介)のこともりすべくしてあり、初期の画風にも影響は出ていました。初作は役者絵の名門生まれのため役者絵ですが、主に美人画で有名になります。 *

鳥居清長の魅力 江戸時代に江戸で生まれた清長は江戸の名所などの自然を背景に描いています。そして八頭身の長身な美人を描くのが最大の特徴。そのモデルのようなスリムで健やかな女性像は世界的に高く評価されています。また清長は絵の場面設定や人物表現にリアリズムを求め、まさに一人 *

にわか映画談義 今回のこの新聞でアメリカ支那だよりを書いているTaroから紹介してもらった「ブレードランナー」について書きたいと思えます。時は近未来、人間が開発した奴隷として使っていた人造人間が、人間に叛旗を翻し暴走、彼らを取り締まり処刑するブレイドランナーが主人公です。これまでは自分から進んで見なかったジャンルなのでまず一歩開拓してきました。 というより見てみると、とにかく長い映像がすばらしくて、どのカットをとっても絵になるカットばかりです。それで舞台設定が独特ですね。近未来でありながら異質が漂ってきそうな生活感のある街並(歌舞伎町をイメージしているようです)。西洋と東洋の入り交じった不思議なSF世界。意外とこういう世界観は私も好きだなあ。一部、違和感のある日本語が使われていますがそれも魅力ですね。これが1982年の作品だとは驚きです。監督のこだわりが随所に見られ、とても見応えのある作品でした。

文と絵・渡辺 紳

東京都足立区六町4-5-38 Tel.03-5856-4458